

昭和二十六年事業報告

京都府立圖書館

一、總括

昭和二十五年制定の圖書館法は二十六年四月より、全面的に施行せられ、多年の要望であつた無料閱覽制が實施せらるゝこととなつた。これを機會として、本館は奉仕活動の充實に一段の工夫と努力をした。

本年度に於て、特筆すべきことは、上京分館の開設、本館大閱覽室の開架制の採用、大閱覽室並に倉庫の修繕である。

二、利用者 (本館並に市内三分館)

本年度の利用者總數は二十三萬五千五百六十名で、九月末より十一月迄約七十日間、大閱覽室の使用不可能なりしにも拘らず、相當の成績を収めたことは喜ばしい。

昭和二十二年(戰前)	一、二九、二〇一名
昭和二十年	二八、六九七名
昭和二十一年	五二、五九七名
昭和二十二年	九七、三三九名
昭和二十三年	一二七、七七五名
昭和二十四年	一七七、八五四名
昭和二十五年	二三五、七四一名
昭和二十六年	二三五、五六〇名

(備考) 岡崎本館工事のため七十日間一部休館)

三、館外貸出冊數(貸出期限一ヶ月)

従來本館附屬の貸出文庫係を経て、各種文化團體に、期限一ヶ月の長期團體貸出を實施して居たが、峰山、官津、綾部の三地方分館の開設により、貸出冊數を著しく激増するに至つた。

昭和二十三年	一七、二七七冊
昭和二十四年	一五、三二一冊

昭和二十五年 二九、九三七冊  
昭和二十六年 四五、三四七冊

此等長期貸出の書籍は、貸出期間中に、概ね三人の利用者の手を経る狀況であるから、昭和二十六年に於て、長期貸出圖書の利用者總數は、概略拾參萬五千名と推定せられる。

四、利用者の内譯

利用者數	本館	河原町分館	伏見分館	上京分館	合計
開館日數	一三七、四〇三	三、五八	四、〇七	一、九、三六	一三七、四〇三
一日平均	二九七	二五六	二八四	二五〇	二九七
	四六二	一三五	一五三	七四	四六二

次に以上の數字を男女別に見ると

性別	本館	河原町分館	伏見分館	上京分館
男	七九%	八九%	六〇%	七七%
女	二一%	一一%	四〇%	三三%

次に之を職業別に見ると

職業	本館	河原町分館	伏見分館	上京分館
一	二六、三%	五一%	一五%	一六%
學	七三、七%	四九%	八五%	八四%

尙學生の種別は本館の調査によれば、大學二〇・六%、高校三九・六%、中學二九・八%、小學一〇・〇%となつてゐる。

藏書構成に於て、小説隨筆の類を主としてゐる河原町分館の特色が、この數字の上によく現はれてゐる。本館並に伏見分館上京分館の傾向は通常の公共圖書館の狀況と略同様である。

五、利用圖書の内容(岡崎本館)

本年度の利用冊數は三三六、四二九冊で一日の取扱冊數は平

均一、二三冊一人の平均冊数は二・五冊となつてゐる。

いまこれを圖書の種類に別つと

總計	六・四%	哲學宗教	三・七%
歴史地誌	一・三%	社會科學	一五・九%
自然科學	一二・五%	工學	四・二%
産業	三・〇%	藝術	五・一%
文學	一八・一%	語學	二・五%
兒童書	六・六%	新聞雜誌	七・四%

### 六、藏書冊數

本年度全館の購入圖書冊數は六千四百五十冊寄贈を受けたもの二千二十一冊であつた。之に對し毀損、亡失等による除籍冊數四百二冊で、差引本年度の純増加冊數は八千六十九冊となつた。

#### 藏書の内譯

本館	和漢書	一七〇、九二三冊
貸出文庫	洋書	七、六五五冊
河原町分館		一八、一〇二冊
伏見分館		三、七五一冊
上京分館	和漢書	四、一二三冊
	洋書	一、五九三冊
峰山地方分館		九八四冊
宮津地方分館		一、九二二冊
總部地方分館		一、九二二冊
總計		二二二、八九七冊

### 七、開架式による圖書の増加

開架式による閱覽方式を採用して、一般利用者の便宜をはかることは、かねてより懸案であつたが、二十六年十一月より、大閱覽室にも、約七千冊の圖書を開架することゝなつた。その結果岡崎本館に於ける開架冊數は

兒童室	約二千冊
學生室	約二千五百冊 (中學生を對象とす)
大閱覽室	約七千冊 (高校生以上一般)

で、利用者の要求の八十%は開架の圖書でその要求が満される狀況となつた。

### 八、讀書相談室の新設

従來も讀書相談の仕事は、不完全ながら、行はれて居たが、二十六年十二月より讀書相談室を新設し、書籍に通曉せる館員を配置して、一般利用者の便に供することゝなつた。

### 九、兒童室

近來學校圖書館が著しく充實せると並行して、兒童室の利用も増大した。附近の小學校兒童中より圖書委員を選んで、兒童室の運営に参加せしめてゐる。

### 十、分館

#### (一) 河原町分館

河原町分館は二十四年六月の開設にして、藏書は小説と隨筆を主としてゐる。利用者に一般人が著しく多いことが、その特色の一である。本年中の入館者數は三四、七五九名である。當分館は地下室に位置するため、停電日に開館出来ないことが缺點である。

## (二) 伏見分館

伏見地區は本館より相當遠隔の地にあり、分館の存在は極めて重要である。當分館は二十五年二月の創設にして、爾來利用者數は漸増し、本年度の利用者數は、四四、〇一七名に達した。

## (三) 上京分館

上京地區も岡崎本館より距離遠く、かねてより分館設置の要望が高かつたので、二十六年四月教育委員會社會教育課直屬のクルーガー文庫を併合して、新に上京分館を設立することとした。現在の位置は紫郊會館内の一室に在るが、部屋が狹隘のため、藏書並に閱覽席擴張の餘地なく、早晚移轉の必要に迫られてゐる。年間の利用者數一九、三八一名である。

## (四) 地方分館

昭和二十五年七月、遠隔の地域の文化的渴望に應ずるため、開設された三地方分館は、本年度入つて、藏書冊數漸く充實して、地域内の公民館、婦人會、青年會、その他の文化團體より頻繁に利用された。本年度の利用團體の總數は九百九十四團體、利用冊數は二九、四二八冊に達した。

利用團體數	利用冊數
綾部地方分館	三六八
宮津地方分館	三一四
峰山地方分館	三二二
	一一、二八〇
	八、三六〇
	九、七八八

## 十一、本館附屬貸出文庫

本年度に於ける文庫の利用團體數は四三七團體にして、利用冊數は一五、九一九冊であつた。利用團體の順位は青年團體二六一回、官公署五九回、會社工場四二回その他三五回である。

之を地域別に見ると京都市内一六五回、綴喜郡一〇〇回、久世郡五七回、船井郡四四回、南桑田郡三一回の順位である。

## 十二、閱覽室並に倉庫の修繕

岡崎本館の大閱覽室は、かねてより屋根腐朽のため、改修を要望されてゐたが、二十六年九月より、大修理工事を實施して、大屋根の全面的改造を行つた。之を機會として閱覽室の電燈照明に卓上スタンド、並に螢光燈を採用した。

## 十三、經費

本年度決算額は、一千七十五万一千二百六十七圓であつて、その内譯は人件費六百五十一万六百四十九圓、圖書購入費三百一十一万一千五百圓、その他百二十二万九千九百十八圓である。

尙三月末現在館員は主事一六名、雇二一名、傭人一名、臨時雇四名である。